

新聞委員会

体育祭

川崎市立川崎高校 新聞委員会 合併号

コロナ対策

今回の体育祭はコロナウイルスの影響で今までのような応援、競技などの実施が不可能となった。台風の目や、ムカデリレー等の競技は選手同士が密集した状態になってしまふことが理由の一つだ。そこで、体育祭実行委員会の皆さんが密にならず、出来るだけ声を出さずに楽



しめるような理想の競技を考えたそう。結果、一年生の学年種目はボール運び、二年生の学年種目は、ブルースhirtによるボール運び、三年生の学年種目はコロナ版ジャンボバトンリレーに変更された。その際にビニール手袋の着用を義務付けることで接触を避けるという対策がなされた。

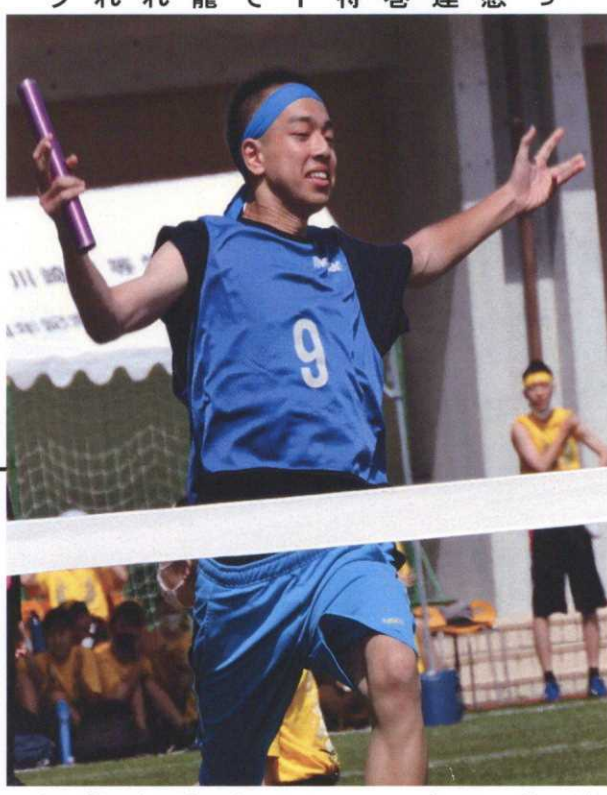
また、中高合同リレーは例年以上の盛り上がりを見せた。今年度も全ブロックから選ばれた走ることが好き、もしくは得意な選手たちが熾烈な戦いを繰り広げた。来年はコロナ禍が完全に無くなり、例年通りのルールで競技を行うことができるように、一人ひとりがその日が来るまでに「三密」を避けることを徹底し、感染防止に貢献していこう。

学年種目 どの順番だった?

学年種目では、それぞれの学年が一致団結してブロックの絆を表現した。

まず、一年生の学年種目は、見ていてかなり難易度

が高いものであったが、協力して懸命にボールを運んでいったのは圧巻だっただろう。特に、最後に二メートルは優に超えているであろう籠にボールを入れる場面では、後れをとっていた緑ブロックが一発でボールを入れたことで、最下位から一気に逆転したことを覚えているだろうか。単に足が速い、遅いではなく、細かい運動能力まで問われる、とても難しい競技であっただろう。



このように、体育祭の運営において今年はいくつの変更点があった。ため満足できる形ではなかった、と後悔している人もいるかもしれない。しかし、ひとまず無事に体育祭を開催することができて良かっただろう。

二年生の学年種目は、ブルースhirtを使ったボール運びだ。ブルースhirtをしっかり張らなければいけないルールがあったため、風向きによってかなり速度が左右される競技だったと思われる。途中、何度もボールを落としてしまう場面も見受けられたが、そこで諦めずに次の人へつなごうと頑張っている姿が印象に残ったという人もすくなくないだろう。

三年生の学年種目は、ジャンボバトンリレーだ。昨年もステージⅢの種目となっていたこの競技は、

三人で一つのバトンを持つルールであった。しかし今年度はコロナウイルス防止対策として、二人で一つのバトンを持つ形に変更された。三年生にとって今年最後の体育祭で、例年とは少し違った形になったものの、最高学年としてしっかりと体育祭を頑張ろうという気合いは他学年の生徒に十分に伝わったことだろう。

そして、今回の目玉種目、高校生全員が参加した八の字跳び。今回は種目が少なく、そのうえどの競技も練習時間が例年と比べて極端に少なく、技能を高める時間もなければチームメイトとの絆を深める時間もない中で当日を迎えることとなった。

体育祭実行委員長の一言

中学生と高校生が別々に行う中で、リレーなど中高合同で行えるプログラムもあり、わずかながらも一緒に活動できる場所があった。中学生も応援団長を務めるなど中学生が自分たちの持ち場で活動できることも良い機会になった。今回はいつもより準備期間が短い上に初めての競技も多かったため、準備が大変でしたが、皆さんのおかげもあって無事に体育祭を迎えられたので嬉しく思う。